



今月のインタビュー
DMO 芝東京ベイ 事務局長

田中 敦典さん

EVENT MARKETING 76

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL.03-6721-5303 sof@event-marketing.co.jp

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp

This period of time



J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA 2021 supported by CHINTAI (株)シムディレクト・(株)タケナカ によるARライブ演出

スマホで撮影した写真を選ぶときに、動画のようにムニュッと動く。iPhoneのLive Photosは、いい表情の写真を選べたり、音声も収録してあったり、便利な機能だ。

ニコンから発売されるZ9というカメラが、物理シャッターレスになるらしい。1秒に30フレーム撮る映像の1コマだけ抜き出せば、写真になるということなのだろうか。

最近一眼レフカメラで映像を撮影する姿をよくみる。映像と写真との境目があいまいになっているようだ。

本紙編集部では紙面で使う写真を自分で撮影するし、最近はYouTubeチャンネルで動画をアップしている。写真と映像、双方の制作・編集をしてみて感じるのは、写真はどの瞬間を切り取るかを考えるもの。映像はどんなス

トーりを紡ぐかを企画するもの。という違いだろうか。

長引くコロナ禍でイベント関係者を救ってくれたのは、オンライン配信。セミナーや展示会のような映像やデジタル化したバーチャル空間で再現した。この1年半でものすごい勢いで普及し、進化してきた。

いま感染者数（検査陽性者数）が減少して、

イベント制限も緩和されそうだ。今回の特集「リアルとオンラインで活きるイベントの映像」では、映像の専門家やイベントのプロに、オンラインイベントや映像表現が、今後どうなるのか聞いた。

この1年半がイベント関係者にとって空白・停滞の時間だったのか、進化の流れのなかにあったのか。あらためて考えてみた。

オンラインでも オフラインでも、

**ビジネスイベントのお悩みは
イベントレジストにお任せください！**



申込受付を統合管理

- ・ウェブ事前受付、オンライン決済
- ・イベントへのスマートチェックイン
- ・動画、ライブ配信の申込者のみの視聴制御



ワンストップで対応可能

- ・企画 ・会場手配 ・デザイン / 施工
- ・運営進行 ・撮影 / 映像 / ライブ配信
- ・申込サイト制作



ビジネスイベントの実績多数

- ・カンファレンス ・セミナー ・展示会
- ・ウェビナー ・オンラインイベントなど



イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>

資料請求・お問い合わせ
contact@eventregist.com



リアルとオンラインで生きるイベン

1年半におよぶ新型コロナウイルス感染症対策のためのイベント制限も、緊急事態宣言が解除とともに、徐々に緩和されつつある。そろそろ対面で集まろうという動きが増えつつある一方で、第6波を懸念してリアルイベント開催に慎重な声も少なくない。オンライン配信への対応、ITでリアルを再現するXR、リアルなイベントでの映像演出。イベントがどのような形で進化しようとも、映像の力が必要なのは間違いない。

コロナ禍でイベント会社や映像会社がどのようにオンライン対応にシフトしてきたか、これからのリアルイベントバブルに備えて、どのような準備をしているか、新たな技術やサービスなどについてとりあげる。

xR + インタラクティブ

疑似体験でなく特別な体験を

シンユニティグループ

音楽とテクノロジーが融合して、オンラインでも会場に集まったような参加体験を生み出すことが求められてきた。コロナ後にハイブリッドイベントは、「会場に行かなくても観れる」以上の価値を生み出せるのだろうか。

映像のある空間づくりをてがけるシンユニティグループは、展示会、学会、株主総会、ライブ・コンサート、プロジェクションマッピングなど、リアルイベントでの映像演出を行ってきた。コロナ禍によって多くのイベントがオンラインに切り替わった際に、自社の強みであるハイエンドな映像表現を活かすために、リアルとバーチャルを融合したxRのサービスに事業の力点をおき、IT・Web技術の開発、人材の育成を進めてきた。

コロナ禍が収束の兆しをみせているいま、実機を触ったり人と人とのインフォーマルなコミュニケーションを目的とする展示会や懇親会などのイベントの主催者、参加者が、リアル開催を待ち望む声が大きくなっている。一方でコンサートやライブなどエンターテインメント系のイベントでは、「xRを活用することで、会場にいるのとはまた違う付加価値をオンラインの参加者に提供できるようになった」とシンユニティグループの(株)タケナカ 専務取締役、



長崎 英樹さん
シンユニティグループ
(株)タケナカ 専務取締役



J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA 2021 supported by CHINTAI (株)シムディレクト(株)タケナカ によるARライブ演出

コミュニケーションを目的とする展示会や懇親会などのイベントの主催者、参加者が、リアル開催を待ち望む声が大きくなっている。一方でコンサートやライブなどエンターテインメント系のイベントでは、「xRを活用することで、会場にいるのとはまた違う付加価値をオンラインの参加者に提供できるようになった」とシンユニティグループの(株)タケナカ 専務取締役、

ト系のイベントでは、「xRを活用することで、会場にいるのとはまた違う付加価値をオンラインの参加者に提供できるようになった」とシンユニティグループの(株)タケナカ 専務取締役、

総合レンタル業のバイオニア
西尾レントオール株式会社
<http://www.nishio-rent.co.jp/>

総合レンタル会社だからできること

感染症対策品も各種保有あります！！
東日本～西日本まで各拠点で、ネットワークを生かした対応可！！

RA 札幌営業所
〒063-0834 北海道札幌市西区発寒14条11丁目1-10
TEL 011(590)1420 FAX 011(590)1477

RA 東京営業所
〒108-0022 東京都港区海岸3-20-20ヨコソレーンボートタワー1F
TEL 03(3453)7240 FAX 03(3453)7000

RA 東京第2営業所
〒108-0022 東京都港区海岸3-20-20ヨコソレーンボートタワー1F
TEL 03(5765)2400 FAX 03(5765)2402

RA 名古屋営業所
〒490-1114 愛知県あま市下萱津替地1050番地
TEL 052(445)2450 FAX 052(445)2453

RA 大阪営業所
〒536-0014 大阪府大阪市城東区鳴野西二丁目6番8号
TEL 06(4258)2401 FAX 06(4258)2404

RA 神戸営業所
〒651-0093 兵庫県神戸市中央区二宮町1-2-3マスタビル6階
TEL 078(231)5820 FAX 078(231)5824

RA 福岡営業所
〒812-0051 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭5-8-32
TEL 092(643)8240 FAX 092(643)8877

東京・大阪に、編集・配信スタジオがOPEN

WEB版イベントマーケティングの特集ページにてオンラインコンテンツをご紹介します



当社東京本部及び大阪本社内に収録と配信が可能なスタジオを新設。イベント運営に精通したスタッフがディレクション、オペレーションを担当。セミナー配信、製品発表、オンラインイベントの事前収録などお気軽にお問い合わせください。



X MARKETING
CREATION



サクラインターナショナルは、新しいマーケティングソリューション「XMC」サービスを提供します。
クロス・マーケティング・クリエイション

商ル-ム®

Webinaru
ウェビナートータルサポート

Smart e-Messe
オンライン展示会プラットフォーム

VIRTUAL X REAL
バーチャルブース制作サービス

MICE WORLD
Online order form & Payment processing

Virtual PORTAL®
3Dwebサイト

Starter Page
オンラインプロモーション用LP

GOOD CONTACT
オンライン顧客情報育成サポート

Sakura International

<https://xmc.sakurain.co.jp>

TEL: 03-5646-1160
FAX: 03-5646-1161

トの映像

(株)シムディレクト 代表取締役の長崎英樹氏は語る。

世界観を増幅する カメラトラッキング

10月9日・10日に六本木ヒルズで開催された「J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA 2021 supported by CHINTAI」(イノフェス)は、「テクノロジーと音楽で日本をイノベーション!」がテーマ。有観客とオンライン視聴のハイブリッド形式で実施された。そのメインコンテンツである、三面大型LEDと複数のARカメラとセンサーを駆使したARステージをタケナカ・シムディレクトが担当した。

会場に集まったファンは、アジカン、のん、BE:FIRSTなど人気のアーティストのパフォーマンスに、久々のライブの臨場感と、場の空気感と一体感を味わった。

オンライン参加者にも満足してもらうため、カメラアングルの工夫など迫力のある画づくりで、会場での参加体験により近づけるのが通常のアプローチだが、ARステージでは、会場とはまったく違う体験を提供した。

会場の空間にアーティストの世界観を増幅させる3D映像を演出に加える。カメラアングルにAR映像がスムーズに追従し、カメラのスイッチングにもズレなく切り替わる。また、舞台セットを一瞬にして変化させるなど、現実世界では不可能な演出をオンライン参加者は楽しめた。

「VFXに慣れ親しんだZ世代の参加者にウケるか」と長崎さんには一抹の不安もあったが、オンラインでもライブ感がしっかり伝わっていたことや、高いカメラトラッキング技術をともなった演出で、特別感を視聴者に提供できた。

「歌ダンスなどのパフォーマンスも良かったし、AR演出もキレイで素敵やった!!」「これ現地行かれた方たちも配信のアーカイブ絶対観た方がいいね!!! AR楽しい!!!」「ARの映像に娘も興味津々で一緒に楽しめました～」といった投稿がTwitterを賑わせた。



J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA 2021 supported by CHINTAI (株)シムディレクト・(株)タケナカ によるARライブ演出



シムディレクトグループは、XR体感の新技術“エモリス(Emoris)”を開発。オンライン・メタバース空間内におけるユーザー体感を追求する

インタラクティブで 拡がる可能性

x R イベントにインタラクティブな要素を加え、さらに参加感を増す。そのためにシムディレクトグループは、独自のx R 技術“エモリス(Emoris)”を開発している。参加者の反応やメッセージを3Dの立体エフェクトに変え、「エモく、ビジュアルライズする」。少人数な

ら参加者のメッセージを空間にとぼしたり、大人数なら特定数の応援がたまると風船やプレゼントのエフェクトを出したりと、使い方はいろいろ考えられる。有料にして新たな収益にする方法もありそうだ。

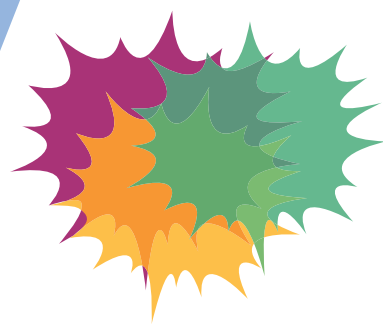
エモリスは、AKB48グループの記者会見やライブでも採用され、アーティストとファンの距離を縮める役割を果たしている。

ライブ・コンサートで活用されている技術はBtoBイベントで応用もできるだろう。本紙編集部(ほか2社)で主催しているBACKSTAGEで活躍した、アナライザー「Join Visual」も同じ開発思想だという。

コロナ禍によるオンライン化で開発された技術が、アフターコロナで開花する事例となりそうだ。

イベントの **集客** に

展示会関連 **販促** に
サービスの



イベントバズー
Event Buzzle

イベントをもっと楽しく、簡単に

主催者の方には、イベント参加者を満足させることに集中して欲しい。そんな想いから生まれた、イベント主催者向け情報サイトが「イベントバズー」です。イベント会場、集客ツール、運営サービス、ケータリング、などなどイベント開催に欠かせない情報を、ワンストップでチェックできるサイトを目指しています。いま、イベントバズーは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



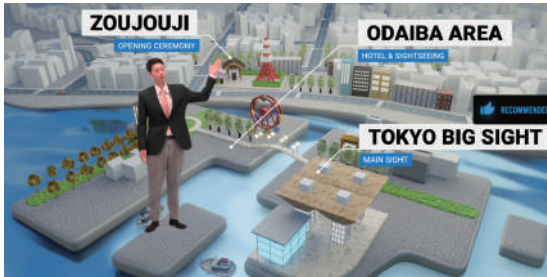
<https://eventbuzzle.com>

オンライン x イベント運営

リアルの強みがバーチャルで活きる

サクラインターナショナル

コロナ禍の当初から「イベントは前の形には戻らない」という代表取締役の妙代金幸さんの言葉通り、大胆にDXに舵を切ったサクラインターナショナル。コロナ収束がみえてきたいま、さらにどのような進化をするのだろうか。



左:スタジオで撮影した動画と3DCGの映像を合成したプレゼンテーションも行っている
 右上:東京本部内の「STUDIO ARUKAS T」で収録
 右下:山崎貴予さん(左)と後藤大夢さん(右)

東京本社内に設置した配信スタジオ「STUDIO ARUKAS T」は、既存写真・映像素材を利用した手軽な配信から、バーチャルサービス（XMC＝クロス・マーケティング・クリエイション）と連動しグリーンバックや3DCGアニメーションなどを活用した高品質なオンライン配信にも対応する。

東京インターナショナル・ギフト・ショーやSEMICON JAPANなど展示会の出展者説明会や記者会見などに利用されているほか、金融機関等が開催する中規模展示会、企業のプライベートショーなど、フル稼働の状態だという。11月には大阪本社内にもスタジオをオープンする。

撮影、配信、音響などの機器がそろっているのはもちろんのこと、企画・構成から台本作成、映像制作までできる人材の力も強みだ。「企業文化の理解や訴求のポイントなど、クライアントのニーズを形にできるのが、イベント運営



妙代 金幸さん
サクラインターナショナル（株）代表取締役

を支援してきた弊社の強み」（東京イベント企画部後藤大夢さん）、「オンラインイベントは、配信のスキルも必要だが、それ以上にイベントのノウハウが求められている」（同、山野淳さん）、「これまで2Dや3Dのグラフィックから映像へとフォーマットが変わったが、やっているのは“デザイン”で大きな違いはない」（XMC 部山崎貴予さん）。他にも2D・3Dデザイナーとしてリアル・virtual イベントのデザインを行っていた多くの社員がコロナ禍、会社方針を理解し、学びを重ねることによって映像制作も行えるように成長したことが、他社と比較した際の同社の強みとなっている。

グローバルからグローバルへ

社名の通り、サクラインターナショナルはバイリンガル人材も多く、国際的に事業を展開している。海外企業の日本出展、日本企業の海外出展、に加えて海外企業の海外イベントも手掛ける。海外渡航制限のため国際事業は少なかったが、先日久しぶりに台湾企業のドイツ出展をサポート。今後、国際間の事業も回復、増加していくそうだ。「イベントがオンライン化し地域の壁がなくなったことは、グローバルからグローバルに進化するきっかけにもなっている」（妙代さん）。

イベント業界全体で、コロナ禍の苦労を成長につなげていきたい。

映像機器 x 中継車 x スタジオ

多様なイベント形態から最適な選択を

西尾レントオール



石田 裕さん
西尾レントオール(株)
レントオール事業部 ビジュアル営業所 所長

東京2020大会の延期、無観客開催によって、地上波放送はハイビジョンのまま、映像機器の4Kへの移行は遅れている。

西尾レントオール(株)の中継車3台のうち1台は4K仕様だが、ハイビジョン仕様での大型中継車が現在は需要が高い。4K普及のネックになっているのは需要と移行時期がいつになるのか、インフラ環境（5G）が普及することで状況が変わると、ビジュアル営業所の石田裕所長は考える。

同社は東京ビジュアル営業所内に配信スタジオを設置。1日10万円という低額な価格設定もあり、高稼働となっている。セミナー

イベント機器のレンタルと現場でのオペレーションを行う西尾レントオール。映像機器、大型4K中継車、配信スタジオなどを取扱う同社の動静を見れば業界の動向がわかる。



や記者発表などのほか、企業のeSports大会などレクリエーションでの使用も多い。新規ユーザーの利用も多く、西尾レントオール(株)のサービス訴求の場にもなっている。

スタジオが気軽に使い、質の高いオンライン配信が容易になった。一方、展示会や企業イベントなどではリアルイベントの要望が高い。多様なイベント形態から最適な手法を選ぶ主催者を、西尾レントオール(株)は豊富なツールとスキルをもつ人材がサポートする。

学会 x オンライン

学会に対応する独自システムを開発

ヒビノメディアテクニカル



学会や国際会議、展示会の映像機器のレンタルやオペレーションを行うヒビノメディアテクニカル。コロナで事業はどう変わったのか？

中島 義人さん
ヒビノメディアテクニカル(株)
代表取締役社長

学会の多くがオンライン化すると、配信の業務が中心となった。PCを使用してZoomやTeamsなど一般ユーザーが使用するプラットフォームに映像を送る。学会では“分科会”といって、複数の講演が同時に開催されることが一般的だ。そのため多くのオペレーターを手配するようになった。

オンライン化するためには、登録・決済システムと、API連携して映像を出力するし

くみが必要。開催するたびに主催者の要望に添えていくうちに機能が充実し、ECSS for ONLINEというプラットフォームとして1つの形になった。

単位取得のためのeラーニング、同時通訳付き会議、遠隔地からのリモート発表、学会併設Web展示会の運用もできる。



待望のクリスティMシリーズ後継機
RGBピュアレーザープロジェクター誕生!!

CHRISTIE M 4K25 RGB

※100V、200Vで使用可能(100V時は輝度50%)

●22,500 ANSIルーメン
●4K UHD (3840 x 2160) 解像度
●質量: 41.7kg、騒音: 46dBA
●M-J-Crimsonレンズ併用可
●MRIギングフレーム併用可

ウシオライティング株式会社 クリスティ営業部
本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-9-1 Tel:03-6316-2261(直)

www.christie.jp

RGB プロジェクター

小型軽量化で使い勝手良いRGBプロジェクター

ドバイ万博の公式プロジェクション & ディスプレイパートナーとして、会場の中心に位置するアル・ワスル・ドームに4万ルーメンの3DLP RGB ビュアレーザープロジェクターを252台提供したクリスティ。最近の動向や新製品の開発はどうなっているのだろうか。

ウシオライティングのクリスティ営業部では高輝度高精細なプロジェクターを中心にラインナップ。イベント以外にも、劇場や大規模ホール、アミューズメント施設などに導入されている。コロナ禍でイベント向けの販売が減少するなか、以前から提案を進めていた施設・設備の案件で、今期納品を行ったケースがあったものの、やはりコロナ前と比べて厳しい状況だった。

一方で、親会社ウシオ電機が、人体に影響を及ぼさない紫外線による、抗ウイルス・除菌殺菌技術「Care222®」を開発。ウシオライティングでも同技術を搭載したダウンライト

タイプなど、ウイルス対策を進める施設に導入するなかで、プロジェクターなど主力製品のセールスにもつなげた。

クリスティの今後の製品開発のロードマップは2つに分かれる。1つは製品の小型軽量化、静音化。4K4万ルーメンのD4K40-RGB、3万ルーメンのGriffyn 4K32-RGB、2万5000ルーメンのM 4K25 RGBが代表格として挙げられ、M 4K25 RGBはその最たるものと言える。一方で8Kの高輝度高精細モデルの開発も進め、コロナ収束後の設備投資需要に備える。

また240hzを活用、60hzごとに4枚の異なる映像を投影し、専用のメガネをつかって、異なるビューポイントにいる2人が同時に3DVR映像を体験できるHoloStageのような、付加価値の高い製品の用途開発も進めている。これらはエンターテインメント需要にとどまらず、デザイン検証やコミュニケーション促進な



ドバイ万博に252台のプロジェクターを提供

どBtoB市場への導入も進められている。

性能向上がすすむプロジェクター。その効果を最大限発揮する、アミューズメントや大規模イベントがまもなく再開する。新しい体験が僕らを待っている。



4K4万ルーメンのD4K40-RGB

エアータッチディスプレイ

AIRR(空中映像)+非接触タッチセンサ
安心して操作ができる

「エアータッチディスプレイ」(製作:(株)エンターテインメントボウル、技術協力:(株)



※什器サイズ・画面サイズは適宜変更可能。
※複製画面を他の大型デジタルサイネージに出力可能。
※「14インチ」の他、スマホサイズや22インチ、40インチなど自由なサイズでの展開も可能。
※卓上で利用できる高さが約270mm程度の什器も展開予定。

ソリッドレイ研究所)は、ホログラムのように空中に浮遊する映像を、非接触タッチセンサにより操作する非接触の空中タッチディスプレイシステムだ。空中映像装置には広い範囲から見える空中映像を形成する技術「AIRR*」を使用している。

一般的なタッチパネルコンテンツに対応しているため、既存のタッチパネルコンテンツやデジタルサイネージを活用することもできる。

商業施設の従来のタッチパネル式のインフォメーションや案内マップのシステムに付加し、非接触デバイスとして展開が期待される。

*「AIRR」は宇都宮大学山本 裕紹 教授が開発した「Aerial Imaging by Retro-Reflection」の略称。(国内特許コード:P190015860)

製作:(株)エンターテインメントボウル
技術協力:(株)ソリッドレイ研究所

temi

テレプレゼンスロボット×展示会/国際会議
遠隔地から見せる、参加できる

映像センター イベント映像事業部が今年新たに導入したのは、遠隔地からの映像を届けることのできる「テレプレゼンスロボ temi[テミ]」だ。

例えば、展示会やイベントで、会場に持っていけないような商材や、工場や倉庫のような場所の紹介など、temiが動き回って遠隔地で見せることができる。逆に、イベント会場にtemiを置き、遠隔地からの参加に対応することも。

10月21日に行われた東京観光財団×UIA(Union of International Associations・

国際団体連合)主催のハイブリッド開催国際会議イベントでは、海外からのゲストスピーカーとして、temiを複数台使ったパネルディスカッションが行われ、テレプレゼンスの能力を存分に発揮した。イベントの演出・参加に、新しい選択肢となりそうだ。



おかげさまで創刊6周年

愛されるイベマケから

業界のみなさんを愛するイベマケに



株式会社 MICE 研究所

月刊イベントマーケティング編集部

〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABC ビル 4F-A

Tel: 03-6721-5303 / Fax: 03-6721-5704

<https://www.event-marketing.co.jp>



展示会 開催宣言！

“

Inter BEE 2021

”

価値あるリアル対面で体験を提供



一般社団法人
日本エレクトロニクスショー協会
Inter BEE ディレクター

小田 佳代子 さん

11月17日から19日まで、幕張メッセおよびオンラインのハイブリッド形式でメディア総合イベント「Inter BEE 2021（インタービー 2021）」が開催される。Inter BEE ディレクターの小田佳代子さんに、2年ぶりのリアル開催復活やオンライン連動開催の継続について、その舞台裏を聞いた。

「Inter BEE 2021」では、今年3月25日には幕張メッセでのリアル開催とオンラインでの連動開催を発表するとともに、出展者募集を開始し、例年と同様のスケジュールで開催準備を進めてきた。

「Inter BEE 2021」では、リアルおよびオンラインというハイブリッド型スタイルで、11月17日から19日までの3日間を幕張メッセで、そして11月17日から12月17日までの1ヶ月間をオンラインでの連動開催の形をとった。

「2020年に完全オンライン開催をした直後から次回はぜひリアル開催をという声が多数届いていましたので、その声に応えたいと思っていました」とInter BEE ディレクターの小田佳代子さんは話す。

リアル基軸 オンラインで補完

「Inter BEE」には、プロオーディオ、映像、放送、通信、プロライティング、配信関連のプロフェッショナル、そして映像・メディア業界の技術者・クリエイター・ステークホルダーまでが集まる。目的は、音や映像、照明など、実際にみて放送・配信の制作や伝送、体験のシーンを想定しながらの商談や導入検討、最新情報のアップデートなどだ。

「製品を触る、聴くという体感や、対面で直接に説明を受ける、交流をともなった製品理解をするという展示製品の性質上、訴求効果がオンライン開催でのモニターを通してでは十分とは言えず、リアルの場所を提供するべきとしてリアル開催の準備を進めています」（小田さん）

一方で、オンライン開催は昨年実施し出展者

140社・来場者数21,056名で展開した実績もあり、「コンファレンスをいつでも視聴できる」「出展者情報を動画やデジタルデータでも取得できる」という参加者の声を受け、今年も継続して提供する。

「リアルと同じことをオンラインでしようということではなく、いい形で棲み分けて活用していただくというのが今回の基本設計です」と小田さんは関心度合いによってさまざまな参加の選択肢がある、と説明する。

体験できる特別企画を用意

幕張メッセの会場では、体験型の企画を集めて行い、「INTER BEE EXPERIENCE」では、音のプロフェッショナルユーザに向けた小型SRスピーカー体験セッション、音響セッション、チュートリアルセミナーを実施。

「Inter BEE 2021」

<リアル>

会期：11月17日（水）～19日（金）

会場：幕張メッセ

<オンライン>

会期：11月17日（水）～12月17日（金）

主催：一般社団法人 電子情報技術産業協会

運営：一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

「INTER BEE IP PAVILION」では、IPリモート・プロダクション+実体験+5Gをテーマに、ニューノーマル時代の放送技術を紹介する。遠隔地からIPネットワーク回線経由で放送機材を操作し、ライブ番組を送出する新しい手法のデモ提示やIP機材を中心に構成した中継車のデモ展示などを実施するという。

また、「INTER BEE CREATIVE」では、世界の映像業界で、次世代の映像制作手法として注目を集めているIn-Camera VFX（実写撮影とリアルタイム3DCG映像をLEDビジョンに描写し撮影する手法）の撮影システムを会場に組み立て、国内の展示会では初めてとなる撮影および体験のデモンストレーションを実施する。

「Inter BEEにはプロユースの放送局向け機材はもちろん、インターネット配信向けなど量販店では扱っていないようなBtoBユースのラインナップも揃うのが特長です。配信イベントや動画マーケティングを担当される方にも有意義な機会になると思います」（小田さん）

Broadmedia & Entertainment

Inter BEE 2021

11.17[水]»19[金] 幕張メッセ | 11.17[水]»12.17[金] オンライン

メディアとエンターテインメント産業の未来を体験。

コンテンツに関わる全てのユーザに向けて

幕張メッセで開催！

Let's discover the future of media



入場事前登録受付中!! 今すぐ登録!

完全Web登録制：入場事前登録のうえでお来場ください。

最新の展示会情報はこれから ▶ www.inter-bee.com

お問い合わせ：
一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会（JESA）
E-mail: contact2021@inter-bee.com

展示会場内や、ご来場に際しての感染症対策は、Inter BEE 公式サイトにてご案内しております。

博覧会・展示会の企画に参画させて下さい。

飯田電機工業株式会社

<http://www.iidae.co.jp/>

□ イベント事業本部	〒136-0082 東京都江東区新木場1-8-21 TEL 03-3521-3522 FAX 03-3521-3524
□ 千葉事業所	〒261-0025 千葉県千葉市美浜区浜田2-38 幕張ビル TEL 043-273-2441 FAX 043-273-2531
□ 池袋サンシャイン事業所	〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-4 文化会館3F TEL 03-3982-9551 FAX 03-3982-9564
□ 大阪事業所	〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座1-9-9 阿波座パークビル TEL 06-6543-2880 FAX 06-6543-2884
□ インテックス大阪事業所	〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102 インテックス大阪内 TEL 06-4703-5401 FAX 06-4703-5402
□ 本社事業本部	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7 表参道IDAビル TEL 03-3409-3333 FAX 03-3409-0104
□ 東北事業所	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-10-17 仙台一番町ビル6F TEL 022-716-2077 FAX 022-716-2078

□ 本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7
TEL 03-3409-3331 FAX 03-3409-3827

68 電力 処理能力 需要

100%

いよいよ、展示会が本格再開！力を合わせて頑張ろう！

ビジネス系イベントの電気工事もしっかりサポートします。

株式会社 鈴木電機

〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-12-5
TEL 03(3842)8201 (代) FAX 03(3845)3040
URL: <http://www.suzukidenki.co.jp>

展示会 スケジュール

は Web で
無料の

イベントマーケティングウェブサイトへ

<https://www.event-marketing.co.jp>

9月・12月の
展示会・イベント
スケジュール

東京・名古屋・
大阪・神戸・京都版

10月の展示会・イベント

全国版

Mika + Rika

**2020年9月の展示会・イベント・国際会議
スケジュール（全国版）**

- 9月1日~9日 オンラインに限定 MarineZine Day 2020 Autumn
- 9月20~30日 第9回日本水産流通内販路開発研究会 定年大会 京浜東横会場
- 9月2日~4日 第12回 Japan マーケティング Week Ⅱ期 京浜ビッグサイ
- 9月21日~4日 第15回 ライフスタイル Week Ⅲ期 東京ビッグサイト
- 9月13~4日 オンラインに限定 CEDEC 2020/バックステージ
- 9月13~4日 アート&デイズ 10th Special Days&フェスティバル 両国馬場
- 9月19~4日 第17回 PwC Global Energy Management Conference 中野サンプラザ会場
- 9月13日~4日 開館20周年記念メッセ2020 09月特別展 復興

* 10月1日~4日 Master Fairing Tokyo 2020 京浜ビッグサイ特設会場

主催：東京ビジュアルアーツ 協賛：丸栄

常務：株式会社モリタインテリジェンティクス

公式サイト： <https://www.masterfairing.com/en/index.html>

入場料全席自由前売1人1,500円（1日観覧）1万500円+300円

観覧券形式の長袖シャツサイズ M〜XXL

※観覧券を申請して付いたお客様には「観覧券」が一枚のみ、商品購入にも変更、また観覧期間も短縮した「短期観覧、即日ご観覧ください。」というチケットでの観覧販売も実施。（10月13日発表）要領参照

日本最大のテクノロジー-OEMイベント「Master Fairing Tokyo 2020秋10月1日(木) 2日(金) 3日(土) 4日(日)」開催の場として、本イベントは「国内イベントマーケティングメディア」として、最新の市場動向や最新技術に関する情報を、多くのお客様が注目する。本イベントは、最新の市場動向や最新技術に関する情報を、多くのお客様が注目する。

イベマクスケジュール5つの特長

① 無料、登録不要で、いつでもアクセスできる。

② 一覧表と詳細表示が切り替えられる

③ 月ごと、地域ごとに、毎週のスケジュールが確認できる

④ 展示会以外のイベント情報も掲載

⑤ イベント情報の掲載も無料

運営会社：
㈱ MICE 研究所

「DMO芝東京ベイ」始動！MICEのビジョン

DMO芝東京ベイ 事務局長

田中 敦典 さん

9月29日に「DMO 芝東京ベイ」が設立された。DMO (Destination Marketing Organization) とは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う組織のこと。今回、東京都に新たに設立された「DMO 芝東京ベイ」の設立の目的や今後のビジョンについて、DMO芝東京ベイ事務局長の田中敦典さんにお話をうかがった。



——「DMO 芝東京ベイ」という名称には、どのような想いが込められているのでしょうか

田中 「DMO 芝東京ベイ」の対象エリアは、竹芝エリア、浜松町エリア、芝浦エリアと東京都内でも東京湾を臨む範囲になります。地元の皆さんからは古くから「芝」と呼ばれていること、このエリアの特徴でもある水辺の景観を生かしたいと思ったことから「DMO 芝東京ベイ」の名称にしました。東京ベイと付けたのには、国際的にみても海に接している首都は少なく、なかでも東京の水辺は面白いということを伝えたいという思いからです。海から見た景観が非常にきれいで、東京を代表するような東京タワーや増上寺、東京スカイツリー、レインボーブリッジなどを一望できますし、東京に来たということを実感いただけたと思います。

——設立まで、どのように進められてきたのでしょうか

田中 2020年9月に東京都および東京観光財団の「東京ビジネスイベント先進エリア*」に応募をして採択をされました。

どのような狙いがあったのかというと、例えば都内では、東急グループが渋谷を、三菱地所が大手町中心に大丸有エリアを、森ビルが六本木・虎ノ門エリアをそれぞれ開発し街を盛り上げるために、DMOをつくっています。私自身は東急不動産の所属で、昨年開業した

東京ポートシティ竹芝を拠点に、芝エリアの地域活性をという思いを持っています。一方で、1社単独1拠点だけでは、面としての盛り上げには限界があります。そこで、世界貿易センタービルの再開発として「浜松町駅前西口計画」を進める株式会社世界貿易センタービルディング、「芝浦一丁目計画」の開発をする野村不動産株式会社、竹芝海沿いに四季劇場、アトレ竹芝、メズム東京からなる複合施設「ウォーターズ竹芝」を開発するJR東日本とディベロッパー各社と連合し垣根を乗り越えて、浜松町駅周辺の芝エリアを盛り上げようとスタートしました。

(*東京のMICE開催の新たな拠点となる地域・団体)

——設立当初からすでに59社・団体が会員となり、顔ぶれも多様ですね

田中 東京におけるMICE開催の新たな拠点になることが設立の目的ですので、MICE会場となるホテルやコンベンション施設や水辺活性するMICEメニューの取組みで舟運関係の皆さまへ声がけをしたり、元々芝を祭などで盛り上げてきた地元企業・振興団体の皆さまともコミュニケーションを取ったりしながら、約1年をかけて機運を醸成してきました。東京タワー、増上寺などユニークベニューとしても魅力的な会員さんや、割烹料亭や屋形船など日本のレクリエーション提供が期待

できる会員さんなどもいらっしゃいます。また、MICE事業も展開されていない地元の企業さまにも会員になっていただけており、一義的に想像するMICEシーンには想定されないかもしれませんが、街の魅力紹介といった場面などで協力をいただきたいと思っています。

——これからMICE誘致に向けてはメニュー開発もされていくのでしょうか

田中 すでに施設見学を含めて定例で行っている勉強会やワークショップでご意見をいただき、これから誘致していくにあたって、選ばれる理由となるエリア特色のあるメニューを開発検討中です。特に地元の方々は歴史・文化に強く、江戸時代から300年、400年の歴史を語れる方や、水辺の楽しみ方をガイドできる方、そして、われわれのような新しくスポットを開発している者などいろいろな知見があり、全方位、いろいろな分野の方が集まっているのがワクワクしています。

——今後に向けたメッセージをお願いします

田中 都心でありながら、光溢れる親水空間、四季を感じられる文化財庭園などの自然豊かな環境、歴史ある文化施設、日本有数のミュージカル劇場等、ここでしか体験できない非日常を提供して参ります。都心のアーバンリゾートを感じていただけたらと思います。

「DMO芝東京ベイ」とは



「DMO 芝東京ベイ」の対象は竹芝エリア、浜松町エリア、芝浦エリア。1000名規模のMICEを受入れる施設も。幅広く対応する



9月29日に開催された「DMO 芝東京ベイ」設立総会イベント



芝エリアの放送局として「浜祭」などの地域振興活動を行う文化放送によるトークイベントも行われた



設立総会後には、記念祭として会員でもある芝大で祈禱が行われた

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数: 約20件
デジタルマーケティングと
オフラインを組み合わせ
販促とファンづくりに

製薬会社
ミーティングプランナー

▶年間イベント件数: 100件超
業界のファーストムーバーとして
異業種のトレンドを知り
講演会に活かしたい

IT企業向け
マーケティングサポーター

▶年間イベント件数: 約150件
イベントマーケティングに関わる
テクノロジーやツールについて
情報収集したい



特集

イベントマーケティングのトレンドを
国内外の事例や動向から分析し、
メーカー・イベントの
皆さんと共有します。



国内・海外ニュース

ツールや
テクノロジーの最新情報、
開催直前概況・
事後レポートなどを
紹介します。



コラム

幅広い視野と独自の視点、
経験をもつ
著名人が執筆します。



インタビュー

リアルコミュニケーションを
楽しくをテーマに
話題の方々ほか、インベーター、
イベントメーカー、
主催者の声を収録。



調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、
効果最大化の手法など、
face to faceを科学する
レポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所: 株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

